

アミール・ツアルファティ氏 ジャパンツアー 2017年7月12日
川崎リビングウォーターチャーチ 第二部 「神様のカレンダー影と実体」

<https://youtu.be/PCLDZ36Bq7o>

今日、またここに立てることを感謝します。神は、日本の中で動いておられると信じます。アーメン！そして、皆さんがとても重要な役割を担っておられると信じています。私は、神が、神の子どもたちにご計画を知ってほしいと願っておられると信じています。イザヤ書 46:9~10 を読みます。

- 9 遠い大昔の事を思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。
10 わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる』と言う。

(イザヤ書 46:9~10)

多くの人の問題は、神が既に明かされている事を信じる代わりに、神がまだ明かされていないことに注目し過ぎる、という点です。多くの人が私の所に E-mail とかフェイスブックでいろいろな他の牧師のメッセージを送って来るんですが、その多くが、バイブルコードとか聖書の秘密とか、ここに書かれていない事を明かそうとしたメッセージが多いのです。そういう人たちからは遠ざかってください。申命記 29:29 を読んでみましょう。聖書の中には、はっきりと書かれています。

- 29 隠されていることは、私たちの神、主のものである。しかし、現わされたことは、永遠に、私たちと私たちの子孫のものであり、私たちがこのみおしえのすべてのことばを行うためである。

(申命記 29:29)

だから、私たちは明かされている事にこだわり続けるべきです。それ以外の事を解き明かす必要はありません。聖書の中にはコード（暗号）なんてことはありません。神は、初めのころから終わりの事を宣言されました。神は、神の子どもたちに対して、何も隠されてはおられません。もしあなたが神の子どもであり、聖霊様を宿しておられるのなら、何かを解き明かすような人たちについて行く必要はありません。覚えておかないといけないのは、旧約聖書が私たちに与えられたのは、律法は養育係として与えられ、それが私たちを正しいところに導くためのものです。私の影を見てください。とてもお天気の良い日に道を歩いていて、太陽があなたの上に当たると、影が道に映ります。たいていの時は、影は皆さんの前に進みます。でも、誰かの影を見た時に、あなたがたは影に向かって話しかけたりはしませんね。影と握手したりしません。影に話しかけたりしません。でも、もしそんなことをされるのなら、あなたは医者に診てもらった方が良い(笑)。しかし、影は大切なものではありません。その影は皆さんを大切なものところに導く——ホラー映画とか、暗いところを歩いていて、街灯が照らす長い影が…それを見ると、実体が見えるということが分かります。それが影の概念です。これから、本物が現れる、というヒントを皆さんに与え、それに対する考え方を与えるものです。だから、私たち信者として理解しなければならない事は、最も危険なことは、影にこだわり過ぎて実体に関わる事をしない、ということです。多くのクリスチャンたちが、キリスト教に関してとても不安に思っていて、ある種の教師たちが

彼らに言ったのは、「もし彼らが良いクリスチャンになりたいのなら、彼らはユダヤ人にならないといけない」と。安息日を守り、これをしたり、あれを食べてはいけないとか、あれをしてはいけないとか、エビを見たら走って逃げなければいけないとか、豚肉、ブーブー(笑)そして彼は自分を誇りに思います。「豚肉を食べない私!」「私はエビを食べない!」とか、「私は安息日を守る!」とか、「私はユダヤ人だ!」「私は割礼を受けている!」

?????

私は、天国に行った時、それを確認する人は誰もいないと思います。聖書の中には、コロサイ人への手紙 2:16~17 にこうあります。

16 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、祭りや新月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。

17 これらは、次に来るものの影であって、本体はキリストにあるのです。

(コロサイ 2:16~17)

このように、これらのことは全て影に過ぎず、しかし実体はイエスです。分かりますか?どんな哲学も、どんな宗教も、どんな決まり事も、それは神ではないという事を理解しておくべきです。コロサイ 2:8~9 を読んでみましょう。

8 あのむなし、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。それは人の言い伝えによるもの、この世の幼稚な教えによるものであって、キリストによるものではありません。

9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。

(コロサイ 2:8~9)

だから皆さんが影を見た時に、これは私たちの神がいるところではありません。聖書の中には、キリストのからだの中にあるのであって、影の中にはないと書かれています。ハイ、OK?

では次に、私たちが覚えておくべき事は、私たちが食べ物について、飲み物について語る時、安息日について、新月、それから祭り、これは全てイエスに関する事です。しかし、それら自体はイエスではありません。それらはイエスを指し示すものです。いいですか? Good!

次に、神はイスラエルの子どもたちにおっしゃいました。

「わたしは、わたしたちの間に、思い出させるためにカレンダーを始める。この暦、カレンダーはあなたがたがエジプトを出て来た時に、わたしが一緒にいた時のものだ。この暦は、基本的にはわたしがあなたがたにしたことを反映している。わたしがあなたがたとともにしたこと、わたしがあなたがたを通して行った事を反映している。そして、あなたがたはそれを思いだし、毎年祝わなければならない。」

レビ記の 23 章の中に、神は全て記録されました。その中に 7 つの祭りについて記されています。

- ① 過ぎ越しの祭り
- ② 種なしパンの祭り
- ③ 初穂の祭り

- ④ 五旬節（ペンテコステ）
- ⑤ ラッパの祭り
- ⑥ 贖罪日
- ⑦ 仮庵の祭り

7つの祭りです。カリイオ？カリイオ！Yeah！ハイ、OK！

素晴らしい。今私が話した一つ一つの祭りが、影です。しかし、これらはイエスのからだの中に神の実体があります。だから、祭りは、これから起こることを示していますが、でもそれは影の役割を果たしていて、これから来るものの影なのです。ハイ。GOOD！出エジプト記 12:5～7 を読んでみましょう。

- 5 あなたがたの羊は傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。
- 6 あなたがたはこの月の十四日までそれをよく見守る。そしてイスラエルの民の全集会は集まって、夕暮れにそれをほふり、
- 7 その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と、かもいに、それをつける。

（出エジプト記 12:5～7）

ということで、神はイスラエルの子どもたちに言われました。

「これからわたしは、あなたがたをエジプトから連れ出す。でも、それをするためには、一歳の傷のない子羊を取り、あなたの家の中に取り込みなさい。そして、その子羊をその月の10日目から4日間取っておきなさい。14日目に、しみのないことを確認した後、」

ハイ！（首を斬るしぐさをして、）

「ほふりなさい。」

でも、ただ殺すだけではありません。

「ヒソップの枝を持って、その子羊の血に浸して、家の二本の門柱にふりかけなさい。なぜなら、わたしはこれから御使いを送るからだ。御使いはあなたがたが割礼を受けているかどうかを見るのではなく、」その当時、誰一人として割礼を受けているものはいませんでした。御使いたちは、あなたがユダヤ人かそうでないかを、匂いを嗅ぎつけたりはしませんでした。御使いは誰に対してもインタビューしたりはしません。でも、ここに規則があります。もし、あなたがたが裁きを逃れたければ、血が施されなければならない。もしこれが、あなたがたの罪のためのあなたがたの血でなければ、そのために何かが犠牲にならなければならないのです。ですから、御使いは血以外は何も探しません。ただの血ではなく、無傷の子羊です。その理論の中で、もしエジプト人がそれを聞いて、その血を門柱にかけたとするなら、彼らもまた裁きを逃れることが出来たのです。言い換えれば、川崎の道を歩いている人たちがイエス様の血が罪の贖いだということを知って、その人がヒンズー教徒だろうが、仏教徒だろうが、イスラム教徒だろうが、ユダヤ人だろうが、それは関係ありません。それを耳にして、イエスがその人のために死んだと信じるなら、イエスの血はその人のことも救うのです。そして、そこに御使いが来ました。御使いが血を見た時、その家を「過ぎ越し」しました。だからこれを「過ぎ越しの祭り」というのです。面白いと思いませんか？それが出エジプト記の時の話です。

次に2000年前、イエスがヨルダン川に近づいてこられました。その当時、ヨハネはバプテスト派ではありませんでした(笑)ユダヤ人です。バプテスト派ではありません。今では彼をバプテスト派だと呼びますけれども。しかし、ヨハネがイエスを見た時、彼の方に向かって来るのを見た時に、彼は「見よ。王の王、主の主」と言う事も出来ました。「ユダの獅子」とも言うことが出来たのです。しかし、彼がイエスを見た時、イエスが彼のところに向かって来るのを見た時に——ヨハネの福音書1:29

29 その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ。世の罪を取り除く神の小羊。」

(ヨハネ1:29)

と言いました。彼は、小羊を見たのです。イエスは、神の小羊として来られました。最初に来られた時、イエスの初臨は、神の小羊です。でもただの小羊ではありません。第一コリント5:7

7 新しい粉のかたまりのままでいるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたはパン種のないものだからです。私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです。

(第一コリント5:7)

分かりますか？パウロは「イエスが過ぎ越しの小羊だ」と言いました。だから、イエスはこの世に「神の小羊」として来られ、そして検査され、何一つ罪を見つけることが出来ませんでした。罪のない方の血は流され、イエスは本当の過越となられたのです。イエスの体が、過越の小羊でした。影は、彼らがエジプトで捧げていた子羊です。しかし実体は、イエスご自身です。過ぎ越しの祭りの次の日から始まる祭りは、7日間続く種なしパンの祭りです。レビ記23:6~9

6 この月の十五日は、主の、種を入れないパンの祭りである。七日間、あなたがたは種を入れないパンを食べなければならない。

7 最初の日は、あなたがたの聖なる会合とし、どんな労働の仕事もしてはならない。

8 七日間、火によるささげ物を主にささげる。七日目は聖なる会合である。あなたがたは、どんな労働の仕事もしてはならない。

9 ついで主はモーセに告げて仰せられた。

(レビ記23:6~9)

七日間、私たちは種を入れないパンを食べ続けなければならないのです。水をたくさん飲んだ方が良いですよ！そうでないと、ものすごく苦しむことになります(笑)。その予型として、種というのは、罪のしるし、罪のシンボルです。7というのは、完成の数です。つまりそれはイエスの地上でのすべての人生を通して、罪がなかったという事を示しています。そして、主が私たちを赦してくださった時、主が私たちの罪を東から西に離れているほど遠くに離してくださった時、緋のように赤い罪を、雪のように白くしてくださった、洗い清めてくださったのです。つまりそれは、私たちも罪のない者としてくださったわけです。第一コリント5:7前半

7 新しい粉のかたまりのままでいるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたはパン種のないものだからです。

(第一コリント 5:7 前半)

次に 8 節

8 ですから、私たちは、古いパン種を用いたり、悪意と不正のパン種を用いたりしないで、パン種の入らない、純粋で真実なパンで、祭りをしようではありませんか。

(第一コリント 5:8)

パン種というのは罪のシンボルです。罪のない方が罪になってくださったから、私たちはもう、罪のない者とされました。アーメン？アーメン！皆さん、ご自身を見てください。ご自分で噛みついてみてください(笑)。ということで影は、マツアブレッド。彼らはエジプトを出た時にベーグルを焼いている時間がなかったのです。イーストを入れて発酵を待つ時間がなかったのです。だから生地を作って、熱い鉄板の上に乗せて、穴をあけて刺して、そうすれば膨らまないから。ですからマツアブレッドとは、穴が空いていて、傷、ひっかき傷みたいなものが入っています。ハイ。だからこれはイエスの本当の体のシンボルなのです。突き刺され、裂かれた。だからイエスがパンを取ってそれを裂かれ、「これはわたしの体です」と言われた時に、彼らにとって簡単に理解できるものだったのです。主は、イエスの体の中におられて、ご自身が種のないパンだったのです。そして、過越しが木曜か金曜だったとすれば、安息日の次の日の初日は、日曜日です。レビ記 23:10~14 を読んでみましょう。

- 10 「イスラエル人に告げて言え。わたしがあなたがたに与えようとしている地に、あなたがたが入り、収穫を刈り入れるときは、収穫の初穂の束を祭司のところに持って来る。
- 11 祭司は、あなたがたが受け入れられるために、その束を主に向かって揺り動かす。祭司は安息日の翌日、それを揺り動かさなければならない。
- 12 あなたがたは、束を揺り動かすその日に、主への全焼のいけにえとして、一歳の傷のない雄の子羊をささげる。
- 13 その穀物のささげ物は、油を混ぜた小麦粉十分の二エパであり、主への火によるささげ物、なだめのかおりである。その注ぎのささげ物はぶどう酒で、一ヒンの四分の一である。
- 14 あなたがたは神へのささげ物を持って来るその日まで、パンも、炒り麦も、新穀も食べてはならない。これはあなたがたがどこに住んでいても、代々守るべき永遠のおきてである。

(レビ記 23:10~14)

このように、初穂とは過越しの祭りの直後の日曜日、面白いですね。イエスが「過越し」だったとき、その最初の日曜日に何が起きたでしょう？マタイの福音書 28:1

- 1 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方、マグダラのマリヤと、ほかのマリヤが墓を見に来た。

(マタイ 28:1)

次、6節読みましょう。

6 ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらん下さい。

(マタイ 28:6)

このように、初穂について語る時に、アメリカ人は何らかの理由で、これをイースターと呼びます。それはいい名前ではありません。指を出してください。頭に当てて、リセットしてください。NO MORE EASTER! これはイースターではありません。ボン! どうしてでしょう? イースターとは、「イシュター」から来ています。イシュターとは、アシュタロテから来ています。アシュタロテは、バビロニアの豊穡多産の女神です。だから彼らはウサギを飾ってエッグハントを楽しむのです。これはイエスの復活とは何の関係もありません。聖書的な名前は、イースターではなく、「初穂の祭り」です。第一コリント 15:20 を読んでみましょう。

20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

(第一コリント 15:20)

このように、イエスがよみがえることによって、初穂とされました。眠った者の初穂とされたのです。という事で初穂の祭りというのは、復活の影であり、イエスのよみがえりが実体です。

「ちょっと待って……ラザロがイエスの前によみがえったと思うんだけど……」

聖書の中には、「眠った者の初穂」だと書かれています。つまりそれは、主がこれまでに死んで、よみがえって、その後二度と死ななかつた方はイエスが初めてなのです。ある人たちは一度も死なず、——エノクとエリヤは、一度も死んでいません。彼らは一度も死にませんでした。他の人たちは死んで、よみがえり、そしてまた死にました。それはラザロのような人たちです。彼もまた死んだのです。イエスが歴史上唯一、死んで、よみがえり、そして二度と死んでいないのです。死は、イエスを抑えることは出来ませんでした。死は、イエスより偉大ではありませんでした。死はその棘を失いました。以上です。つまり要点は、主が初穂とされました。そして、信者として死んだ者たちは、携挙の日によみがえります。そして、もし患難の時に皆さんがここにいたのなら、患難の時に皆さんが信じる者となったのなら、皆さんは信仰のために殺されます。そして患難の最後に、皆さんもよみがえるのです。まず、イエスが最初。それから、私たち。そして、患難時代の聖徒たち。これらが、「第一の復活」と呼ばれるものです。聖書の中には、「第一の復活にあずかる者は幸いな者」(黙示録 20:6 前半)とあります。「この人々に対しては、第二の死は、何の力も持っていない。」(黙示録 20:6 中盤)のです。だから、主が最初の初穂です。そしてイスラエルの子もたちは、エジプトを出たばかりです。彼らは実際に、何百 km も歩いたのです。聖書には、神が彼らを鷲の翼に乗せた、とあります。だから、パロの軍隊は、馬に乗って——馬というのは、人間よりも 20~30 倍速く走ります。——イスラエルの子もたちは走らなかったという事を覚えておいてください。パロの軍隊は、最後になってようやく彼らに追いつきました。だから、イスラエルの子もたちは、鷲の翼で運ばれたのです。そして、彼らはエジプトを去って 50 日目に、シ

ナイ山に到着しました。ところで、シナイ山は、シナイ半島にはありません。ガラテヤ人への手紙には、シナイ山はアラビアにあると書かれています。

サウジアラビアの一人の王子が、酷い腰の痛みで悩まされました。ありとあらゆる、可能な限りの薬を試しました。やがて、最終的に薬ではなく、指圧とかそういった別の方法で試しました。そして彼は、韓国にもすごい名医がいると聞きました。その医者名はキム。キムというのは朝鮮では珍しい名前です。もし皆さんが韓国に行って、「ドクター・キムってどこにいますか？」と尋ねたら一人しかいないはず。 (笑) とにかく、ドクター・キムは家族と一緒にサウジアラビアに引っ越しました。そして、この王子を治療しました。背中、腰の痛みで悩まされたことはありますか？これはもう、本当にとんでもない痛みです。最終的に痛みを取り除いてくれる人が誰かいるなら、皆さん、何に代えてでも施術してもらいたいと思うでしょう。それで、サウジの王子は、ドクター・キムに「ここにいてくれ！」と頼みました。

「もう、何でも欲しいものをあげるから！」

ドクター・キムは言いました。

「私は欲しいものが一つあります。あなたに手紙を書いてほしいのです。私はサウジアラビアのどこへでも行けるようにしたいのです。私は考古学が好きだし、自然も好きです。どんな軍隊にも止められたくありません。」

四駆のジープを与えられ、——ジープじゃなく、トヨタです！カワサキではありません。トヨタ。彼はそのトヨタに乗って、軍用地に、誰も入ることの出来ないエリアに到着しました。そして彼はその手紙を取り出し、軍隊に見せました。すると彼らは門を開け、彼はトヨタに乗って中に入りました。そこには大きな山があり、山の頂上は焼けていました。神の火がそこにあるような感じで燃えていました。そして彼はその回りをグルグル回りました。そこで彼は次から次へと出エジプト記の細部、真ん中で真っ二つに裂けた大きな岩、その岩から水があふれ出たのも含めて、いろいろな物を見つけました。そして、彼はカメラを取り出し、写真を撮りました。そこに許された外国人は彼が唯一でした。私たちに分かっているのは、出エジプト記の物語は、特にシナイ山に関する話は、本当に正確なものです。驚くべき証拠も揃っています。また、別の考古学者で、ロン・ワイアット（書記注:1933 生～1999 没）。彼もそこに行き、エジプトとサウジアラビアの間でダイビングをしました。通常海底は深いのですが、そのエジプトとサウジアラビアの間のエリアは、海底が橋のようになっているのを発見しました。覚えておかなければならないのは、100万人のイスラエル人が紅海を渡らないといけなかったのです。一人一人がロープにつかまって、海底に沈んでいたとは考えられないのです。全ての人が、海が分かれるのを見たのです。彼らは文字通り、神が用意された海底の橋を渡って、向こう岸についたのです。そして、ロン・ワイアットがそこでダイビングをしていた時に、エジプトの兵士たちが乗っていた馬車の車輪を発見しました。それは、パロの時代にまで遡ります。皆さんはおとぎ話を信じているのではありません。私たちは HIS STORY=History 神の物語=歴史を信じています。その日、イスラエルの子どもたちはシナイ山までたどり着きました。そして、私たちが知っているとおりに、その時に律法が与えられました。律法が与えられた時、そこに行くまでには10日かかりましたが、彼らはそこで40日間待ちました。そして、イスラエルの子どもたちが何をしたか、皆さんは覚えておいでですね。ユダヤ人の伝統の中では、律法が与えられた時に物凄い火と共に与えられたと言われています。面白いのは、使徒の働き 2:1~4、ユダヤの暦の同じ日に、何か別の事が起こったのがここで見られます。旧約聖書の中ではそこで律法が与え

られました。読んでみましょう。

- 1 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。
 - 2 すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。
 - 3 また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。
 - 4 すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話し出した。
- (使徒の働き 2:1~4)

この暦の中で、律法が与えられたのと同じ日に、今度は聖霊が与えられました。聖書の中には、律法は殺し、御霊はいのちを与える、と書かれています。律法が与えられた時、イスラエルの子どもたちは、金の子牛を拝んでいました。出エジプト記 32 : 28。ここで何が起こったか読んでみましょう。

- 28 レビ族は、モーセのことばどおりに行った。その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた。
- (出エジプト記 32 : 28)

何人倒れましたか？3000人ですね。使徒の働き 2:41。御霊が来た時、何が起こったかを見てみましょう。

- 41 そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。
- (使徒の働き 2:41)

このように、影と実体が見られます。律法が与えられた時、3000人が死にました。御霊が与えられた時、3000人が新しいいのちを得ました。アーメン？（拍手）

4つの祭り、それは完全に成就されました。ユダヤのカレンダーは2つの季節に分かれます。春の祭り、秋の祭り。そして、春の祭りにこれらの4つが入ります。そして、長い長い時間が経って、それから秋の祭りが始まります。ラッパの祭り、贖罪日、仮庵の祭り。面白いですね。この間にギャップがあるのです。実際に、すでに2000年のギャップがあるのです。すでに成就されたこと。それから、これから来ることの中に、です。

5つ目がラッパです。レビ記 23 : 23~24 を見てみましょう。

- 23 ついで主はモーセに告げて仰せられた。
- 24 「イスラエル人に告げて言え。第七月の第一日は、あなたがたの全き休みの日、ラッパを吹き鳴らして記念する聖なる会合である。
- (レビ記 23 : 23~24)

面白いですね。奇妙ですね。来て、ラッパを鳴らして、家に帰る。????何という祭りでしょう！私は考えてみました。聖書はいつも聖書について説明しています。聖書の中で理解しにくい場所を見つけたなら、聖書の別の箇所に行って、その同じ事について語っているところを調べてください。だから、

私はこのラッパがどこからきているのかを調べてみようと思いました。そして私は、民数記 10:1~2 を見つけました。読んでみます。

- 1 ついで主はモーセに告げて仰せられた。
- 2 「銀のラッパを二本作らせよ。それを打ち物作りとし、あなたはそれで会衆を召集し、また宿営を出発させなければならない。

(民数記 10:1~2)

このように、神はモーセに2本の銀のラッパを作らせるように命じられました。どうして2本なのでしょう？どうして5本じゃなく、7本じゃなく、10本でなく、12本じゃなく、たった2本でしょう？どうして銀なのでしょう？金ではなく？どうしてドラムではなく、キーボードでなく、ラッパなのでしょう？ラッパを吹くと、人々の注目を集めるからです。それは、何かが起こるか、誰かが来る、ということです。インドの首相がイスラエルに来た時のニュースを、皆さんテレビでご覧になったでしょうか？飛行機から降りて来られ、歓迎のラッパ！（音のマネ）ことばさん、やらなくていいよ！ラッパの音が、とても大切な人が来られることを告げています。だから私たちは今、ラッパについて理解しました。ではどうして銀なのでしょう？聖書の中には、たくさん金について出て来ます。なぜなら、金は完璧なものだからです。銀は尊いものですが、完璧ではありません。どうして2本でしょう？それは2つの人間のグループがあるのです。この世には、神が彼らを通して働かれるグループが2つあります。どちらも完璧ではありませんが、尊いのです。そして、彼らを通して、神は全世界の注目を集めたいと思っておられます。1つ目はイスラエル。そしてイスラエルは、神が全世界の注目を集めるように願っておられるグループです。イエスが終わりの時のしるしについて語られた時、マタイ 24:32~33 を見てください。

- 32 いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。
- 33 そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

(マタイ 24:32~33)

主はこのようにたとえを使われました。いちじくというのは、シンボルです。神のいちじくの木とは誰の事でしょう？ヨエル書 1:6~7 を読んでみましょう。

- 6 一つの国民がわたしの国に攻め上った。力強く、数えきれない国民だ。その歯は雄獅子の歯、それには雄獅子のきばがある。
- 7 それはわたしのぶどうの木を荒れすたれさせ、わたしのいちじくの木を引き裂き、これをまる裸に引きむいて投げ倒し、その枝々を白くした。

(ヨエル書 1:6~7)

今度はホセア書の 9:10。そこにはこのように書かれています。

10 わたしはイスラエルを、荒野のぶどうのように見、あなたがたの先祖を、いちじくの木の新なりの実のように見ていた。ところが彼らはバアル・ペオルへ行き、恥ずべきものに身をゆだね、彼らの愛している者と同じように、彼ら自身、忌むべきものとなった。

(ホセア書 9:10)

つまり神が、イスラエルを復活させて、回復させたとき、その時にいちじくの木がいのちを吹き返します。それが全世界の注目を引いたのです。エゼキエル書 36:24 には、肉体的な回復と、その意味が書かれています。

24 わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。

(エゼキエル書 36:24)

このように、神はイスラエルを通して、全世界の注目を引こうとされたのです。同じ章の 36 節

36 あなたがたの周りに残された諸国の民も、主であるわたしが、くつがえされた所を建て直し、荒れ果てていた所に木を植えたことを知るようになる。主であるわたしがこれを語り、これを行う。

(エゼキエル書 36:36)

このように、イスラエルとは神が全世界の注目を集める為に使われている国だということが分かります。イスラエルは、神の証人です。イザヤ書 43:10

10 あなたがたはわたしの証人、——主の御告げ——わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、私を信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより先に造られた神はなく、わたしより後にもない。

(イザヤ書 43:10)

そして、使徒の働き 1:8。教会が、神の証人であると書かれています。

8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

(使徒の働き 1:8)

このように、ラッパは、イスラエルと教会を描く図です。さらに、ラッパというのは人々に警告を与えるためのものです。携挙がすぐそこまで来ているという事を、人々に伝えるためのものです。第一コリント 15:51~52 を読んでみましょう。

51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。

52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものに

よみがえり、私たちは変えられるのです。

(第一コリント 15:51~52)

1948年以來、イスラエルと教会がようやく共存することになりました。イスラエルがその地にいた頃は、教会は存在しませんでした。そして、教会が存在していたこれらの年月のうち、イスラエルは、国には戻っていませんでした。1948年以來、ついに、2つのラッパが実に明確にクリアな音を発しています。ユダヤ人がイスラエルの地に戻りました。エルサレムが地に戻りました。そして、石油とガスが発見されました。神は、一つ一つイスラエルを通して、全世界に何かが起こることを伝えておられます。それは何でしょうか？携挙です。ハレルヤ！だから私が信じるのは、ラッパの祭りの時を私たちが生きているという事です。聖書には、最後のラッパが鳴ると、私たちは変えられると書いてあります。つまりそれは、もう既にラッパが鳴り始まっている、イスラエルと教会の2本のラッパが鳴らされているのです。主がイスラエルを肉体的に回復されました。そして主は、教会を靈的に回復されています。そして、主はこれから劇的に移行され、教会を主の元に集め、イスラエルに靈的に対処されるのです。ワーオ！私たちが生きているこの時代を理解されましたか？面白いですね。

次に贖罪日について。レビ記 23 : 27

- 27 「特にこの第七月の十日は贖罪の日、あなたがたのための聖なる会合となる。あなたがたは身を戒めて、火によるささげ物を主にささげなければならない。
- 28 その日のうちは、いっさいの仕事をしてはならない。その日は贖罪の日であり、あなたがたの神、主の前で、あなたがたの贖いがなされるからである。

(レビ記 23:27~28)

贖罪の日は、あなたがたの身を戒める日です。ミライマシメテ。(拍手)身(原語では“魂”)を戒めるというのは、断食とは何の関係もありません。ユダヤ人たちはこの27節を取り挙げて、「身(魂)を戒めるという事は、食べてはいけない事だ。私たちは断食しなければならない」と考えます。食べないという事は胃を戒めているのであって、身を戒めているではありません(笑)身を戒めるというのは、私たちの体ではなく、霊が苦しまなければならないのです。皆さんは嘆かなければならないのです。どうしてでしょうか？面白いことに、聖書にはゼカリヤ書 12:10、イエスが戻って来られると、イスラエルにどのような事が起こるかということが書かれています。

- 10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。

(ゼカリヤ書 12:10)

つまり、贖罪の日の成就というのは、イスラエルが悔い改める事、これはイエスが私たちとともに戻って来られる日に起こります。そして、イエスが私たちとともに地上に戻って来られる時、全てのイスラ

エル人が救われます。そして、次に私たちは千年王国の時代へと入って行きます。これは、この世において最も長く、最も幸せな時代になります。主が全てを新しくされる前です。レビ記 23:34 を開いてください。そこには最後の祭り、仮庵の祭りが書かれています。

34 「イスラエル人に告げて言え。この第七月の十五日には、七日間にわたる主の仮庵の祭りが始まる。
(レビ記 23:34)

神は、私たちとともに仮庵の祭りを過ごされます。主がこの地に住まわれます。この祭りが旧約聖書の中の祭りでただ一つ、千年王国の時代に全世界で祝われるものです。ゼカリヤ書 14:16~18 を見てください。

- 16 エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。
- 17 地上の諸氏族のうち、万軍の主である王を礼拝しにエルサレムへ上って来ない氏族の上には、雨が降らない。
- 18 もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、仮庵の祭りを祝いの上って来ない諸国の民を主が打つその災害が彼らに下る。

(ゼカリヤ書 14:16~18)

日本も、です。皆さんは特別な飛行機に乗って、皆さんは仮庵の祭りを祝うために、毎年エルサレムに来なければなりません。そこで、仮庵の祭りを祝います。もし、千年王国まで生き残ったなら、です。皆さんに悪い知らせがあります。この世の殆どの島は、大患難の間に生き残ることが出来ません。私は、皆さんを怖がらせようとしているではありません。私は、皆さんに真剣になっていただきたいと思っています。そして、真剣に伝道していただきたいと思っています。

終わりに、第一コリント 14:8 で締めくくりたいと思います。読む前に、皆さんがラツパです。それを覚えておいてください。皆さんはラツパになるために、召されたのです。皆さんは見張り人になるために、召されたのです。皆さんは証人になるために、召されたのです。では、読んでみましょう。

8 また、ラツパがもし、はっきりしない音を出したら、だれが戦闘の準備をするでしょう。

(第一コリント 14:8)

では、今からお祈りします。皆さんがラツパとして、はっきりとした音が出せるように、目を閉じて、頭を下げてください。私の中で不思議な思いがあります。どうか目を閉じて、頭を下げてください。ここにおられるどなたかが、聖霊様に触れられているはずです。その方の、主との歩みの中で、はっきりとしない音を出されていることに関して、聖霊様に触れられているはずです。今夜、主が、どれほど皆さんを愛しておられるか、どれだけ皆さんを用いたいと願っておられるか、しかし、主が皆さんを用いる前に、皆さんがどれだけ決意して歩むことが大切か、皆さんに思い起こさせたいでしょう。どうか、目

を閉じたまま、頭を下げていてください。もし、それが今夜のあなただったら、だれもあなたの事を見ることは出来ません。どうか、手を挙げてください。そして、皆さんのために私がお祈りします。

お父様、ありがとうございます。あなたの御霊がここに臨まれました。そしてあなたは、今日、この緊迫した時と季節を、私たちに思い起こさせてくださいました。私たちは今日、あなたのカレンダー上で、この時がとても近いことを知りました。あなたはもう既に、ラッパを吹き始めておられます。イスラエルが地に戻り、教会とイスラエルが初めて共存しています。そして、最後のラッパが鳴った時、私たちはこの場を離れます。その時まで、あなたは私たちに尋ねます。「あなたがたはラッパでいられるか？ラッパがもし、はっきりしない音を出したら、誰が戦闘の準備をするのか？」もし私たちが主とともに歩んでいないのなら、どのようにして人に伝える事ができるのでしょうか？お父様、今夜、私たちに新鮮な聖霊様を与えてください。今夜、私たちはあなたにお祈りします。私たちのあなたに対する思いを新しくしてください。私たちの、あなたとの道を新しくしてください。私たちの救いの喜びを回復させてください。お父様、あなたに感謝します。今夜、あなたはたくさんの命に触れてくださいました。今夜あなたにお祈りします。今日、良いことを始められたあなたが、最後まで完成させてくださる、良いお方です。ここにいる者たちを攻め立てる為に作られる武器が役に立たなくなりますように。あなたの御言葉は、ここにいる全ての人の足の灯火、そして私たちの道を灯すものです。お父様、ありがとうございます。今夜、あなたを、あなたの愛するこの日本より祝福します。あなたが、2000年前に、あなたの御子を、この国のために死に渡すほどでした。そして、あなたの恵みにより、私たちは認識されます。あなたのあわれみゆえに、私たちは宣言します。お父様、日本の川崎より、あなたを祝福します。私たちは言います。私たちはここにおります。イザヤ書で、イザヤは「私がここにおります。」と言いました。「私がここにいます」はヘブル語で、ヒネニと言います。そして、イザヤは「私をどうか送ってください」と言いました。お父様、今夜私たちはここにいます。会場の皆さん、ヘブル語でヒネニ！と言いましょ。ヒネニ！お父様、ありがとうございます。あなたを祝福します。

これら全てを、他にない、美しい御名、過ぎ越しの小羊として来られた方、種なしのパンとして来られた方、初穂となられた方、聖霊を送ってくださった方、終わりのラッパで私たちを連れて行ってくださる方、そして、私たちとともに、この地上に、イスラエルのために戻って来られる方、そして私たちは、主とともに、この地上で1000年間を過ごします。そのようにして、あなたのすべてのカレンダーは成就します。主にあって、主のからだの中に神の全てがあります。ありがとうございます。あなたを祝福します。イエスの御名で祈ります。全ての神の人々は言います。

アーメン。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>